



VMware vRealize Orchestrator Plug-In 1.5 for Horizon 7 リリース ノート

2018 年 11 月 13 日リリース

本リリース ノートには、次のトピックが含まれています。

- [主な特長](#)
- [本リリースの新機能](#)
- [ご使用前の注意事項](#)
- [利用可能な言語](#)
- [互換性に関する注意](#)
- [解決した問題](#)
- [既知の問題](#)

VMware vRealize Orchestrator Plug-In for Horizon 7 の主な特長

VMware vRealize Orchestrator Plug-In for Horizon 7 は、VMware vRealize Orchestrator と VMware Horizon 7 間の通信を可能にします。プラグインには標準ワークフローのセットが含まれています。このワークフローにより、これまで Horizon Administrator や Horizon 7 インターフェイスで実行される基本的な目的を達成できます。

このプラグインを使用して、リモートのデスクトップおよびアプリケーションをプロビジョニングするための設定および方法を拡張できます。

- セルフサービス - エンド ユーザーによるアクセス性を高めるため、vRealize Orchestrator Plug-in for Horizon を VMware vRealize Automation に組み込むことにより、アプリケーションおよびデスクトップにセルフサービスでアクセスできるようになります。このプラグインのワークフローは、vRealize Automation サービス カタログに組み込まれている要求および承認プロセスに統合できます。
- 自動化 - タスクを自動化および分散して管理を委任することにより、電子メールのやりとりと例外処理の必要性が軽減されます。要求は事前定義のプロセスにルーティングされ、申請理由が必要な場合のみ承認を求めるフラグが付けられます。

本リリースの新機能

このリリースの VMware vRealize Orchestrator Plug-in for Horizon には以下の新機能が含まれています。

- VMware vRealize Automation 7.4 および 7.5 リリースのサポート
- VMware vRealize Orchestrator 7.4 および 7.5 リリースのサポート
- VMware Horizon 7 バージョン 7.4、7.5、7.6 および 7.7 リリースのサポート

ご使用前の注意事項

vRealize Orchestrator Plug-in for Horizon のインストールは、その他の vRealize Orchestrator プラグインのインストールと同様です。vRealize Orchestrator Plug-in for Horizon を構成するには、さまざまな構成ワークフローを実行して各種 VMware Horizon 7 コンポーネントに接続し、ロールと権限を構成します。手順については、『VMware vRealize Orchestrator Plug-in for Horizon の使用』ドキュメントを参照してください。

利用可能な言語

vRealize Orchestrator Plug-in for Horizon のユーザー インターフェイスおよび製品ドキュメントは、日本語、フランス語、ドイツ語、簡体字中国語、繁体字中国語、韓国語、スペイン語に対応しています。

互換性に関する注意

vRealize Orchestrator Plug-in for Horizon バージョン 1.5 を使用するには、次の VMware 製品が必要です。

- VMware Horizon 7 バージョン 7.4、7.5、7.6 および 7.7
- VMware vRealize Orchestrator 7.4 および 7.5
- VMware vRealize Automation 7.4 および 7.5
- VMware vSphere 6.0 以降

注: vRealize Orchestrator Plug-in 1.5 for Horizon 7 は、Horizon Air をサポートしていません。

機能面での前提条件の詳細については、『VMware vRealize Orchestrator Plug-in for Horizon 7 の使用』ドキュメントを参照してください。

既知の問題

- [委任された管理者の追加の構成] ワークフローを実行中に、委任管理者のユーザー名を追加し、そのユーザー名に特殊文字が含まれている場合、ワークフローでは成功したと報告されますが委任管理者構成は該当ユーザーに追加されません。
- [マシンのプールへの登録] ワークフローでは、いずれの検証も実行されずに提供されたすべての DNS 名が登録されます。管理者は、返されたレジストリ トークンを登録されたマシンに手動でプッシュする必要があります。
- [アプリケーションに対する資格] ワークフローで、誤ってアプリケーション プール ID ではなくデスクトップ プール ID を指定しても、ワークフローが実行され、エラー メッセージも表示されません。この問題は、プール ID を手動で指定した場合、またはワークフローをデスクトップ プール ID にバインドした場合に発生します。
- プール複製ワークフローでプールを複製するときに、Horizon 7 バージョン 7.1 のプール命名パターンではアンダースコア「_」はサポートされません。ただし、Horizon 7 バージョン 7.0.3 以前のバージョンではサポートされます。